

V 個に応じた自立をより確かにする指導

高等部主事 安藤嘉稔

1 はじめに

高等部では、生徒が将来社会に出てから、可能な限り社会的に「ひとり立ち」をすることをめざして教育を進めている。社会自立・社会参加といわれるが、その生活は、一人ひとりの実態によって異なるものの、家庭生活・社会生活であり職業生活である。この社会的な「ひとり立ち」の可能性を拡大するためには、これらの生活によりよく適応する能力を身につけるとともに「自分なりの生きがい」が持てる「自分なりの力」の伸長を図ることが重要である。

本校高等部に入学してくる生徒は、本校中学部卒業生と他の養護学校中学部および中学校特殊学級の卒業生で、その比率はほぼ同じになりつつあり、この傾向は将来も続くと考えられる。入学生の障害の重さや発達段階の格差の拡大と、基本的な生活習慣の欠除、自信のなさや集団への不適応とさまざまな課題を持って入学してくるのが実状である。このような生徒の実態を十分に把握した上で、卒業後の社会参加の姿を仮設としてとらえて、そこに到達するために段階的・具体的な個人目標をもとにした教育活動を準備して展開する必要がある。

したがって、高等部では作業学習を主要な学習形態としながらも、生活学習・教材単元学習・行事に合わせた学習活動なども重視して、一人ひとりの生徒の主体的な課題解決の能力を育てていきたいと考えている。

2 高等部の取り組み

(1) 前年度までの取り組み

全校で「豊かな心もちたくましく行動する子」のテーマのもとに研究をはじめ、今年度は3年目を迎えた。高等部では、テーマを生徒が将来社会参加を果す姿ととらえ、まず「自立をめざした作業学習の指導」というサブ・テーマを設定して研究に取り組んだが、その概要は次の通りである。

作業学習は、作業一働くことを中心においた合科、統合学習ととらえて、働くことに必要な基本的な諸能力を高めることを主なねらいとし、特に、基本的な行動様式を身につけ、好ましい作業態度を育て、反復的訓練によって身体諸機能の発達を促す、という観点からコース別作業学習のあり方について検討した。

作業態度を具体的にとらえるために、作業態度の評価項目として8項目〔おだやかな心・おもしろ

いやり・けじめ・やる気・根気・責任感・きまりよさ・てぎわよさ〕、その発達段階の3段階を設定した。生徒の作業態度の実態・変容を、この8項目3段階を円形プロフィールに表すことによってとらえ作業学習における個人目標、重点指導内容の設定、指導の手だてを、作業コース別に検討して指導を行った。

(2) 今年度の取り組み

多様な生徒の実態と個々の生徒の社会参加の可能性を拡大するという課題とを、全校テーマの求める生徒像と一致するように、高等部のテーマを「個に応じた自立をより確かなものにする指導」とした。したがって、今年度は教育課程の見直し、個人目標の設定とその指導のあり方について研究を進めることにした。

◎ 教育課程の改訂～従来、高等部では教科中心型の教育課程を編成し実施してきた。教育内容は本校の段階別教育内容表に準拠はしているが、教科の枠にとらわれ指導内容、指導時間が断片的になる欠陥を持ち、学習活動が生きて働く力となりにくいという問題をもっていた。したがって、研究テーマに迫るためにも、つぎのような観点から改訂を試みた。

- 発達段階に応じた個別指導を配慮する。
- 言語、数量に関する基礎基本的内容を身につけて生活に生かす。
- 体位・体力の向上を図り、あわせて情操を豊かにする。
- 作業学習の充実を図る。
- 教材単元の指導が断片的にならないように月別指導計画を立て、時間割の調整も行う。
- 学校行事、学部行事に取り組む活動を通して、個の特性を大いに生かし、より伸していく。

教育課程改訂の概要を表-1に示す。

◎ 個人目標の設定と指導～生徒の現在の姿を予想される社会参加の姿へと着実に高めていくことは、ひとりひとりの生徒の現在達成された課題を出発点として、つぎに続く課題を達成し、それを新たな出発点としてつぎの課題を達成するという一連の個人課題の達成の積み上げによって可能になる。我々は、このような観点から、つぎの手順によって指導をすることにした。

- 個人の実態把握 — 諸検査・観察結果などの諸資料で、達成された課題・問題点をとらえる。
- 個人目標の設定 — 段階別教育内容表に示す自立化、表現化、社会化、職業化の4分野の視点から、当面達成すべき課題を設定する。他の課題やつぎの課題達成の基底となり得るもの。
- 具体目標の設定 — 具体的な行動目標を設定する。
- 重点指導領域 — 具体目標達成に適したおもな指導重点領域を決める。
- 指導のあり方 — 重点領域(指導単位)の担当者が基本方針を検討し、指導実践をする。
- 指導記録、学部内での情報交換や授業研究・事例研究

このような手順によって高等部25名の個人目標を設定し、指導を継続しているところである。

表-1 教育課程の概要

◎は改訂を示す ※学級編成は学年別編成

指導単位	指導形態等	週時数	指導者数
◎生活一般	○学級別学習(学部合同の場合もある) ○時季的な内容、集団生活・社会生活への適応、豊かな生活	6	7
国語	○習熟度別学習 ◎全学年縦割り4クラス編成	3	各2
数学	○習熟度別学習 ◎全学年縦割り4クラス編成	3	各2
音楽	◎習熟度別学習 ◎全学年縦割り2クラス編成	2	各1
体育	◎習熟度別学習2クラス ○合同学習	2, 2	4, 2
作業	○合同農耕園芸 ○コース別学習 印刷・木工・陶芸・被服 ◎農耕園芸 ○校内職業実習 年間4回(5~10日間)含宿泊学習 ○職場実習 1.2年1回 ◎3年2回(必要に応じて随時)	3 8	8 各2
学級指導	○学級別学習 ○学部集会・全校集会	1	
その他	●委員会 ●クラブ ●朝の会・帰りの会 ●給食(合同) ●清掃	1, 1	

3 指導の実際

つぎの3名の指導事例について述べる。

重点指導領域	生徒年名	個人目標	指導単位	指導者
表現化	2 K . 年 M	日常生活を通して、適切な言葉による自己表現ができるとともに、集団の流れに応じて行動できる。	生活一般 国語 音楽	安本 憲司 中村 智美 竹本 紀子
社会化	1 H . 年 K	学習したこと経験したことを生かし、物事に自信をもって、積極的に取り組む。	作業 行事	松本 享典 八木 啓子
職業化	3 M . 年 F	自分にあった課題を責任をもってこなすことにより、集中力や根気を身につけ、自分の態度や行動に自信をもつ。	作業 生活一般	西村 明倫 出脇 典子 安住 順一